

赤穂義士絵巻のあらすじ

I 江戸城松の廊下の刃傷



京都御所からの使者に対し、五代将軍徳川綱吉が礼のことは述べる儀式が行われるのを前に、浅野長矩が吉良義央に突然切りかかる事件がおきます。

II 浅野長矩の切腹



切りつけられた義央は軽傷でしたが、幕府は長矩を即日切腹としました。

III 赤穂城の受け渡し



赤穂藩浅野家はとりつぶしとなり、領地は幕府に返還されました。

IV 残された浅野家家臣団の行方



主君の長矩を失って浪人となった家臣たちは、親戚の浅野長広を新たな藩主として迎え、浅野家を再興させようと幕府に掛け合いながら、仇討ちについても話し合いました。

V きらてい う 吉良邸への討ち入り



げんろく 元禄 15 年 12 月 15 日 (1703 年 1 月 30 日)、きらてい う 吉良邸への討ち入りが決行されました。けつこう

VI 浪士たちの切腹



う 討ち入りに さんか 参加した 46 人は ばくふ 幕府による しよぶん 処分が決まるまでの間、くまもとほんほそかわ 熊本藩細川家など 4 つの だいまいよう 大名家に預けられました。そして よしなか 義央の しじゅうくにち 四十九日にあたる せつぶく 翌年 2 月 4 日に切腹を命じられました。